

## USB リベラメンテ導入記(6) —SWD-DA10 との接続(2)—

### 1. 始めに

前報(5)では、SWD-DA10 との接続における主として DSD 音源の再生について USB リベラメンテの効果を調べました。本報告では、音源ストレージと PC の接続にも USB リベラメンテを使用した場合について検討します。

### 2. SWD-DA10 および音源ストレージの接続における試聴方法

試聴ルートは前報(5)と同じ下記のとおりとします。

PC→HiFi USB→SWD-DA10 (192KHz/176.4KHz) →DA-3000 (44.1 KHz)  
→MYTEK DIGITAL 192-DSD (DA-3000 よりクロック供給)

ここで、SWD-DA10 には GPS-777 から 192KHz (PCM の場合) または 176.4KHz のクロック (DSD の場合) を、DA-3000 には ABS-777 から 44.1 KHz のクロックを供給します。

PC は Dynabook T451/57DB Core i7 64bit の Windows7 機で USB リベラメンテ 3.9 m は PC→SWD-DA10 間の接続に使用します。また、USB ケーブルと PC の間に FIDELIX の USB ノイズフィルターを介在させます。

再生ソフトは HQPlayer Desktop 3 ASIO を使用します。

音源としては、これまでに蓄積した 5.6MHz,DSF と下記のサイトからダウンロードした 11.2MHz,DSD 音源と 352.8KHz 音源を前報(3) で報告した Buffalo 製 USB2.0 外付け HDD の HD-LSU2D から読み出して再生します。

<http://www.2l.no/hires/index.html>

<https://justlisten.nativedsd.com/>

これらを SWD-DA10 導入記 (12)で報告した手順に従って SWD-DA10 でも再生可能なように HQPlayer におけるダウンコンバート設定により、下記のリアルタイム変換再生を行います。

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2014/02/51c28c152ac3e3d7c0217c18c7738192.pdf>

11.2MHz,DSD 音源→192MHz,PCM コンバート再生

352.8KHz,WAV 音源→192MHz,PCM コンバート再生

352.8KHz,WAV 音源→5.6MHz,DSD コンバート再生

このような再生において HD-LSU2D と PC 間の接続を USB-W1 から USB リベラメンテ 1.3m に替えます。

### Buffalo HD-LSU2D→PC

さらに、CD-AD から DSD へのリアルタイムトランスコーディング再生を行うため Plextor Premium 2U を使用しました。即ち、次の接続に USB リベラメンテと比較対象の USB-W1 を使用して試聴します。

### Plextor Premium 2U→PC

## 3. SWD-DA10 および音源ストレージの接続における試聴結果

SWD-DA10 における HQPlayer Desktop 3 ASIO による 5.6MHz,DSF の DSD Native 再生において HD-LSU2D と PC 間の接続を USB-W1 から USB リベラメンテ 1.3m に替えますと、前報(5)において PC と SWD-DA10 との接続を USB-W4 から USB リベラメンテ 3.9m に替えた場合と同様の方向の変化が見られます。即ち、PC と SWD-DA10 との接続が USB リベラメンテに置き換わっただけでも音の深み、厚み、楽器の質感が向上しているのに、さらにそれが重畳する印象です。

同様に 11.2MHz,DSD 音源を 192MHz,PCM として再生する場合、352.8KHz,WAV 音源を 192MHz,PCM として再生する場合、352.8KHz,WAV 音源を 5.6MHz,DSD として再生する場合において USB-W1 を USB リベラメンテ 1.3m に替えますと、5.6MHz,DSF の DSD Native 再生における効果と同様の方向で変化し、11.2MHz,DSD 音源や 352.8KHz,WAV 音源の良さをより効果的に楽しめるようになります。

Plextor Premium 2U からの CD からのリアルタイム変換 DSD 再生において Plextor Premium 2U と PC との接続を USB-W1 を USB リベラメンテ 1.3m に替えますと、HD-LSU2D からの読み出しと同じ方向での音の変化があり、CD からのリアルタイム変換 DSD 再生のメリットを十分に感じさせるものとなりました。

なお、SDM (DSD) 初期設定のオーバーサンプリングフィルターは polysync にすると CD 再生開始までに時間がかかり minringFIR にすると、この時間が著しく短縮されます。そこでじっくり音質を比較してみますと、いままで分かりにくかった両者の差が USB リベラメンテの投入により明確に分かるようになり polysync の場合の音の肌理の細やかさが望ましく感じられます。

## 4. まとめ

SWD-DA10 と HQPlayer Desktop 3 ASIO の組み合わせにおける DSD 再生においても 11.2MHz,DSD 音源や 352.8KHz,WAV 音源のダウンコンバート再生においても、CD からのリアルタイム変換 DSD 再生においても、音源ストレージと PC との接続における USB リベラメンテの効果は大きく、DSD 音源の読み出し、352.8KHz,WAV 音源の読み出し、CD の再生いずれにおいても PC から DDC や DAC への送り出しと同様の効果がありました。

以上